

ノボル鋼鉄の前6月期

売上高、リーマン後で最高

需要堅調、値上げ影響も

ノボル鋼鉄(本社・東京都千代田区、社長・三上晃史氏)の2018年6月期単独決算は売上高65億9300万円、前期比10・5%増、経常利益1億2600万円、同26・0%増、税引前利益4千万円で同33・3%減となり、売上高はリーマンショック後は最高だった。

工作機械、半導体関連を中心に受注が堅調で、全事業所で売上げ目標を達成した。品種別売上数量の伸び率では工具鋼よりも構造用鋼の方が高かった。増収幅の3割は鋼材値上げが影響した。鋼材販売の利益率は仕入価格高騰による影響で低下したが、経費増を抑制して売上高経常利益率を改善した。

税引前利益の減少は新規設備投資(マシンニングセンター1台、鋸盤3台)に関して特別償却を実施したため。

今期は売上高69億3千万円、経常利益2億円を目指す。静岡支店のリフレッシュ計画は順調で、19年6月に新工場を着工する。

ノボル精密、ノボルエンジニアリングと合わせたグループ全体では17年度売上高は81億5000万円、同10・0%増加した。三上社長は「長期目標とするグループ売上高100億円が見え始めてきた」とする。18年度は86億円を見込む。

ミャンマー人技能実習生2人を含む10人を採用し、前期末の直接雇用の従業員数は119人となった。